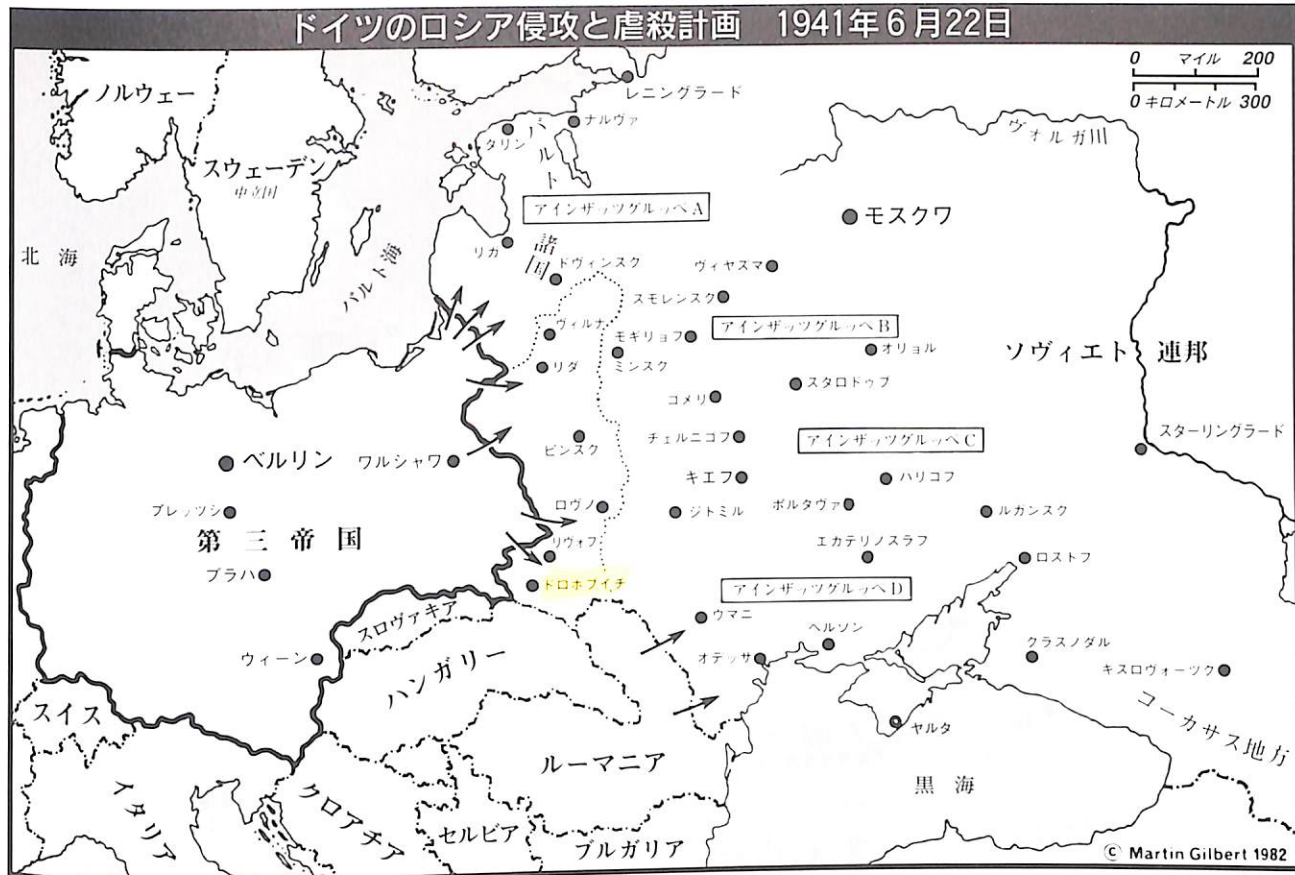


ドイツのロシア侵攻と虐殺計画 1941年6月22日



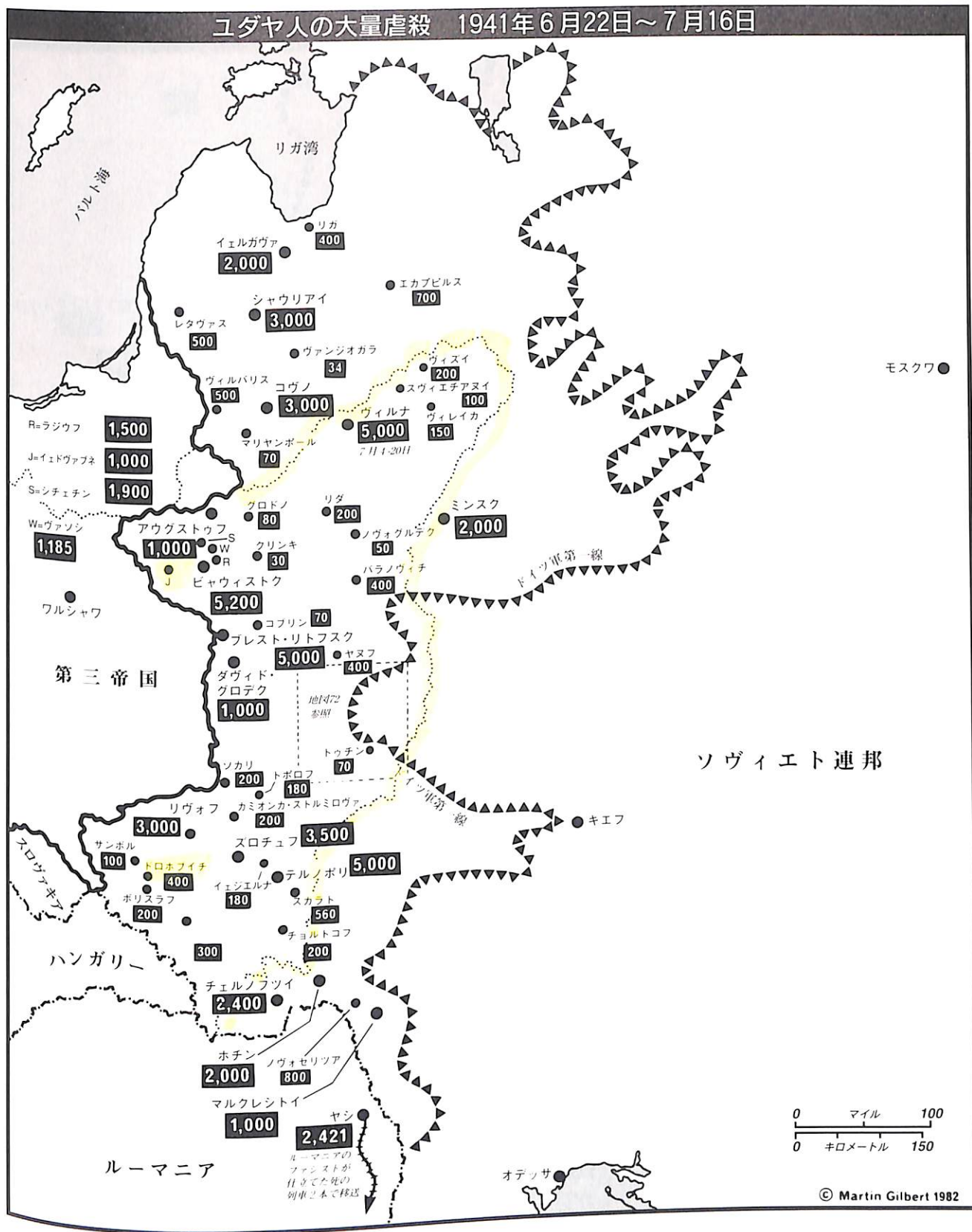
1941年6月、ドイツ軍がソ連へ侵攻した。進撃速度がきわめて早く、安全地帯であるヴォルガ川東岸へ逃げのびたユダヤ人は、30万人にも満たなかった。

右の写真は、東ガリチアのドロホバイチ(1939年、ソ連が併合)の町に到着したアインザッツグルッペDの将校達である。移動抹殺隊の任務のひとつに、現地の反ユダヤ主義者の組織化があった。ウイライナ人、リトアニア人、ラトビア人などの反ユダヤ主義者を採用して、狩りこみや襲撃の手伝いをさせるのである。ドロホバイチにおける抹殺隊の行動については、67頁を参照されたい。

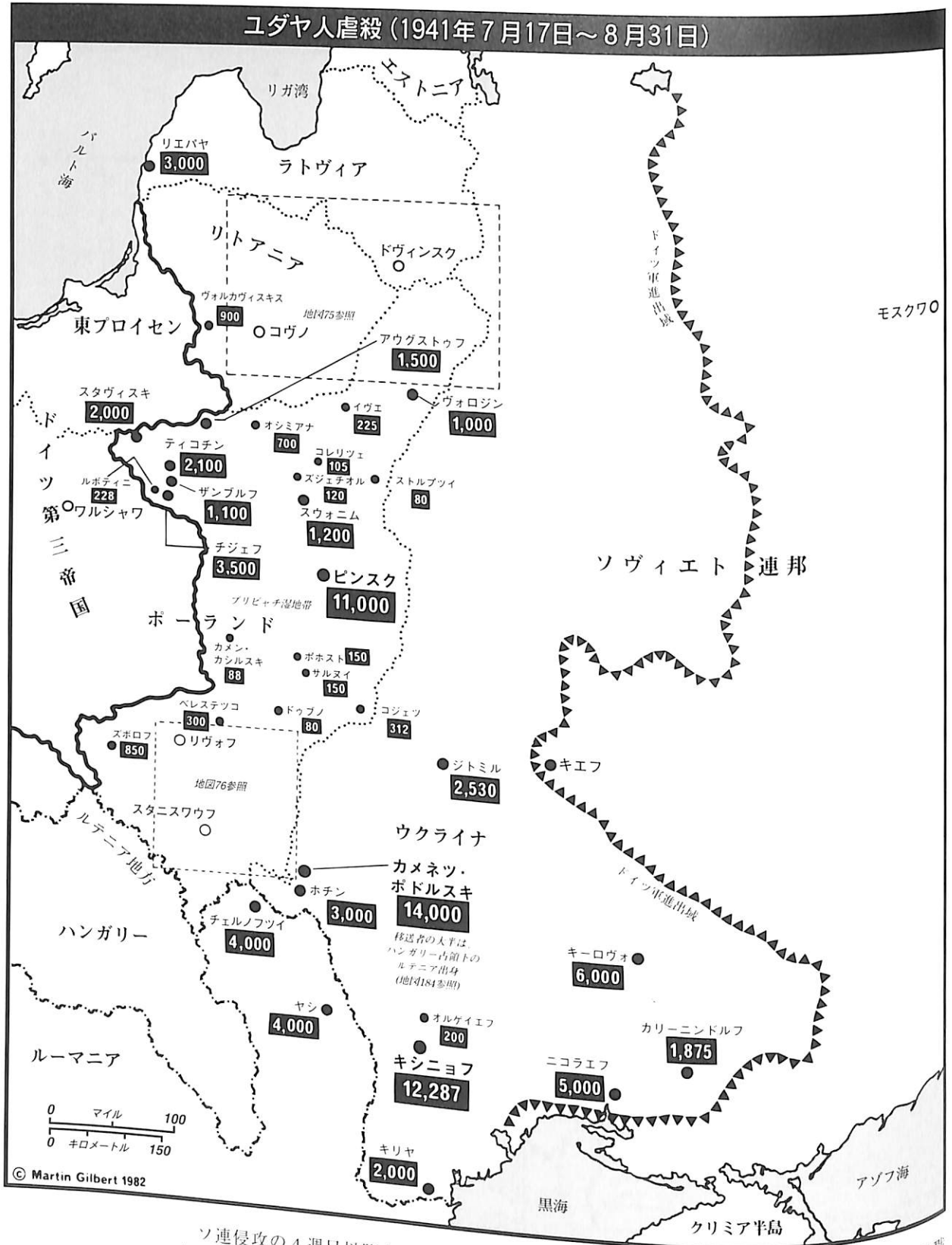
地図71は、各移動抹殺隊の分担と、緒戦時の1941年6月22日における、ドイツ軍およびルーマニア軍の進撃方向を示す。



ユダヤ人の大量虐殺 1941年6月22日～7月16日



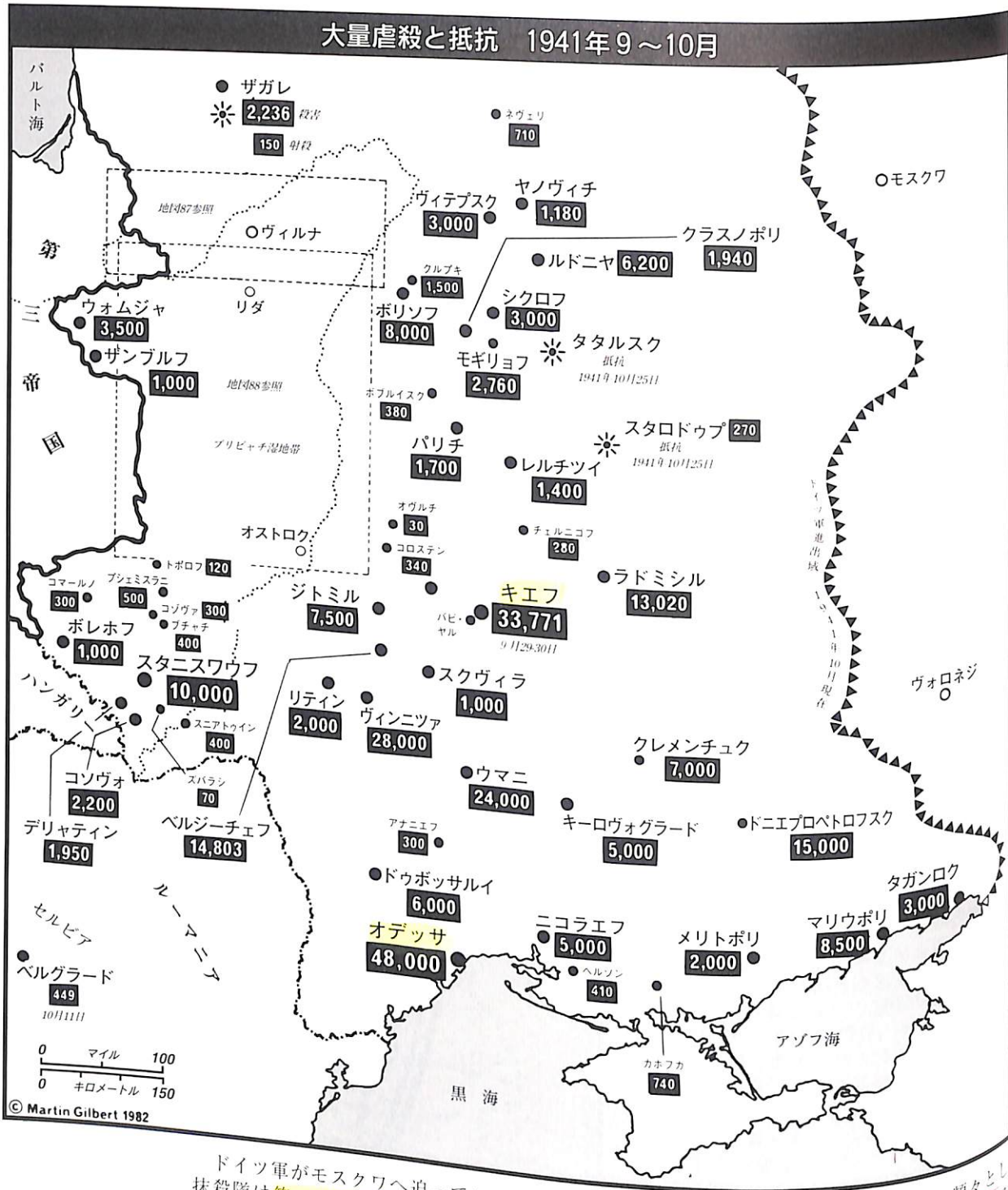
1939年時点で25万人を超えるユダヤ人がヴォロニア地方に住んでいた。白ヌキの数字(地図73)は、侵攻から3週間のうちに抹殺隊が殺した人数である。



ソ連侵攻の4週目以降も、移動抹殺隊は精力的に仕事を片づけていった。地図74～76に表示された数字(白ヌキの数字)は、抹殺総数のうちの数パーセントにすぎない。ほかの町村とよに小さな村や部落での抹殺分は、記録

に残っていない。そしてまた、SSだけが殺戮を行なったわけではない。例えばリトアニアでは、一番残忍なユダヤ人殺しを行なった。南方では、現地の反ユダヤ人であった。また、ルーマニアでは、ルーマニア軍部隊と民兵が、

大量虐殺と抵抗 1941年9~10月

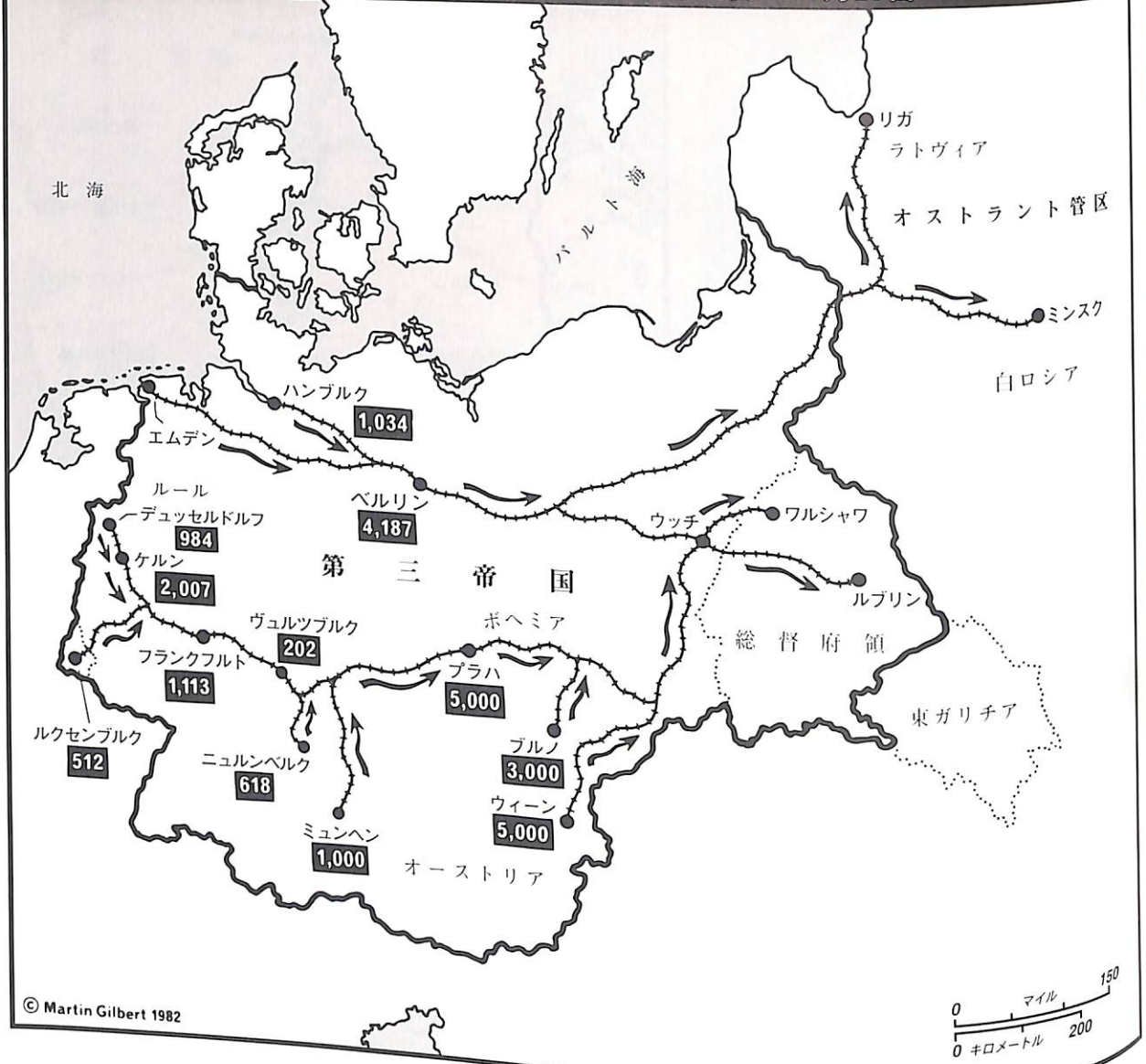


ドイツ軍がモスクワへ迫っている頃、移動抹殺隊は第一線の背後で殺戮を続けていた。地図86は、主な虐殺例である。地図87は、リトアニアのヴィルナ地区の詳細だが、そこではドイツのSS中尉が上司への報告用に、詳しい記録をつけていた。自分の抹殺隊が処理した人数を男女、成人子供別に毎日書いていた。

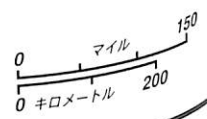
移動抹殺隊は重武装のうえ、現地の反ユダヤ勢力から強力な支援をうけていた。殺される側のユダヤ人は非武装で、猛烈な敵意を抱く農民層に囲まれた環境のなかにいた。この

農民層は、抹殺隊が到着する前から頼々としてユダヤ人社会を襲った手当りしだいでユダヤ人を殺すので、SSが地方住民に殺されることをめよと命じるケースがあったほどである。抹殺隊は、無秩序なやり方を好まず、抹殺したのがジュールに従った“組織的”行動に徹したが、抹殺隊は圧倒的な力を誇る相手ではなかった。最初のユダヤ人が抵抗する場合もあった。スタロドゥブで乱が起きたのが、タタルスクとすすぶるためである(地図86)。この反乱はドイツは正規軍を投入した。反乱が広がるとドイツ軍は火砲で砲撃したり、航空支援を

12回の連続東方移送 1941年10月16日～11月29日



© Martin Gilbert 1982



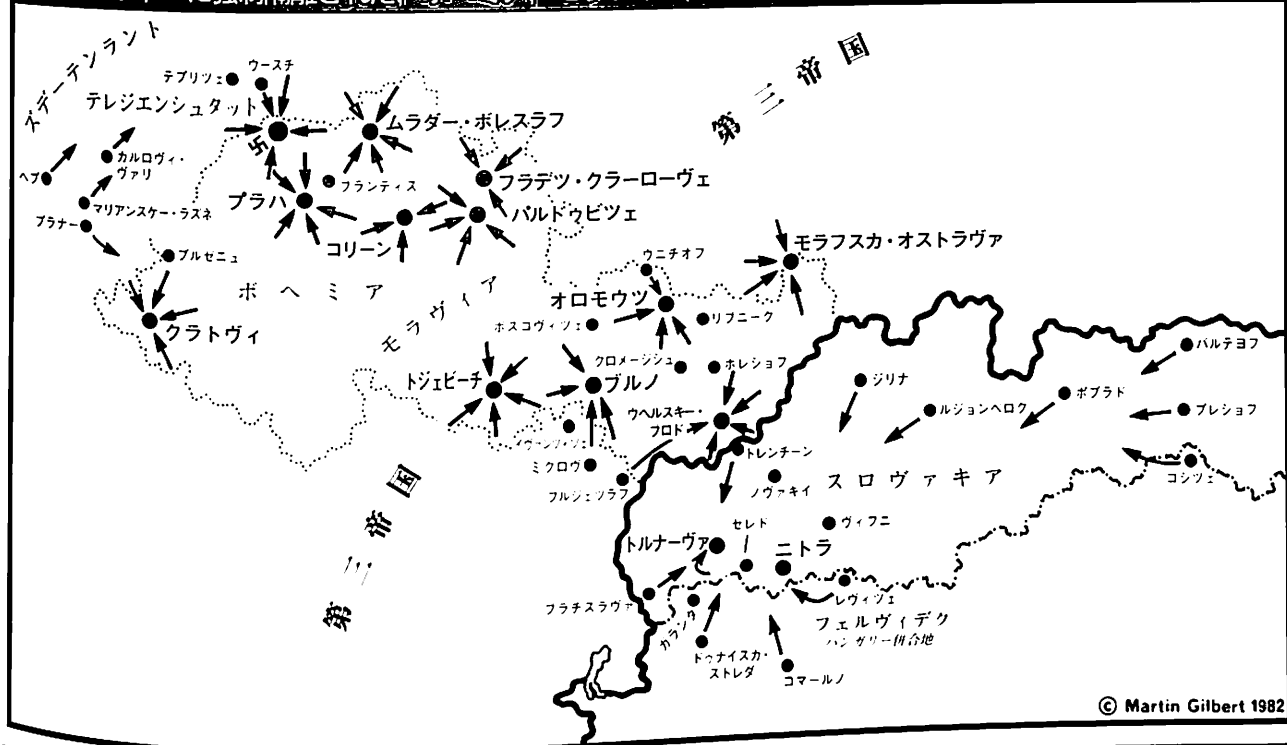
1941年の秋、SSは2万2000人余のユダヤ人を、ウッチ、ワルシャワ、ルブリンのゲットーのほか、旧ソ連都市のリガとミンスクへ移送することを決めた(地図92)。第一次移送列車は、1941年10月16日に出発した。ゲットーに到着したユダヤ人を待っていたのは、飢餓であった。リガとミンスク組は、到着とともに付近の森へ運ばれ、そこで射殺された。

一方スロヴァキアでは、当地のユダヤ人数千人が1941年10月10日から、セレド、ヴィフニ、ノヴァキイの労働キャンプへ送られ、旧チェコスロヴァキア領に残留するユダヤ人は住家を出るよう命じられ、14都市のゲットー指定地区へ送られた(地図93)。このユダヤ人達は、1941年9月1日時点から黄色のバッジ着用を義務づけられ、すべてのビジネス活動

の中止を命じられていた。スロヴァキアだけでも、1万を超えるユダヤ人店舗と企業が閉鎖の憂き目にあった。

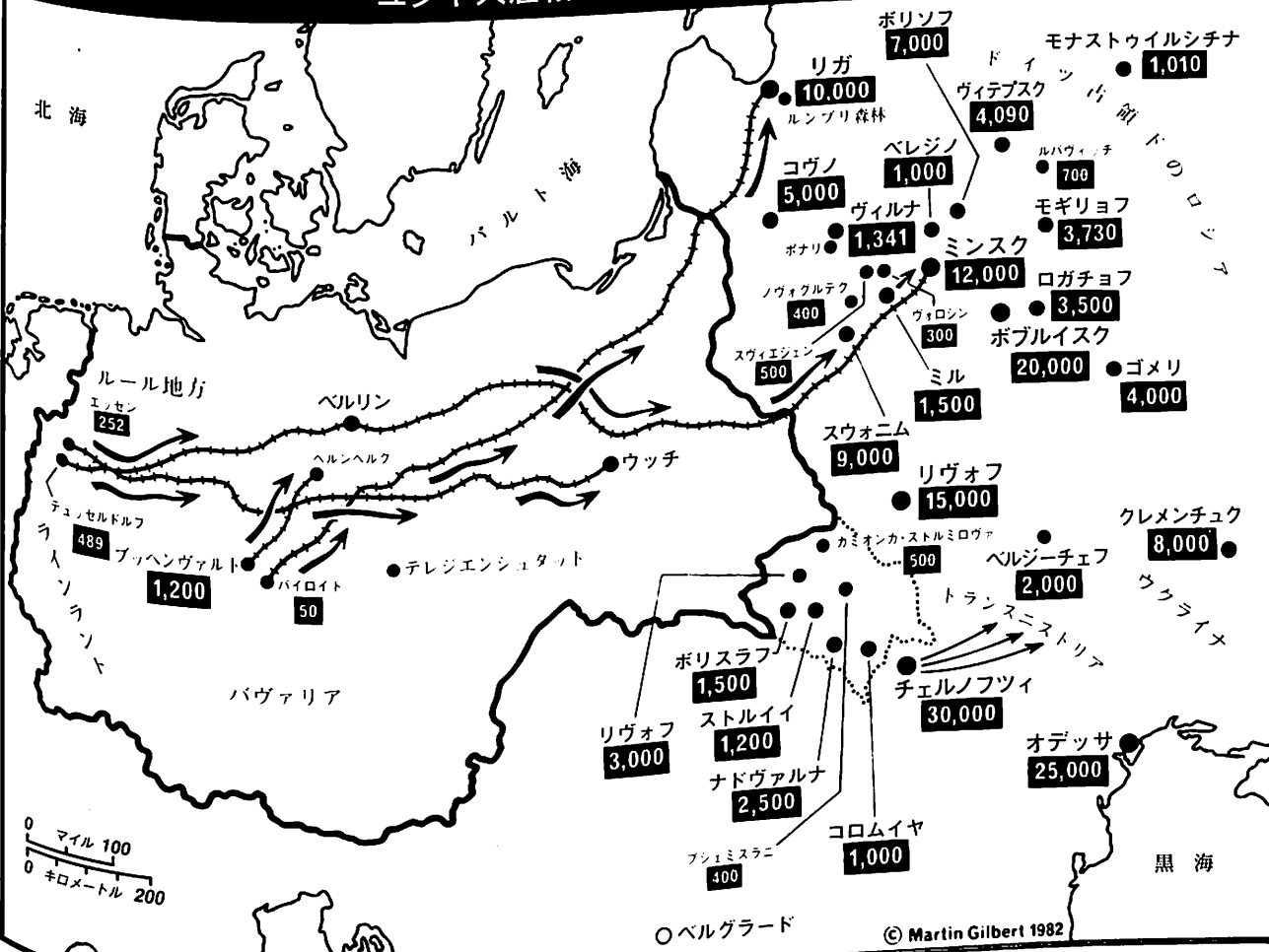
1941年11月24日、新ゲットー中最大級のものが、チェコの小さな要塞都市テレジエン(ユタット(チェコ名、テレジン))に完成した。終戦まで7万3614人のユダヤ人が、モラヴィアからここへ移送された。ドイツ帝国の各地からも数千人が送られている。11月、東方への移送が続くなか、隊はその仕事を精力的にこなしていた。1200人の収容者が実験用に選ばれ、ルクの安楽死センターへ送られ、

ゲトローに強制隔離された、ボヘミア、モラヴィア、スロヴァキアのユダヤ人 1941年10月10日



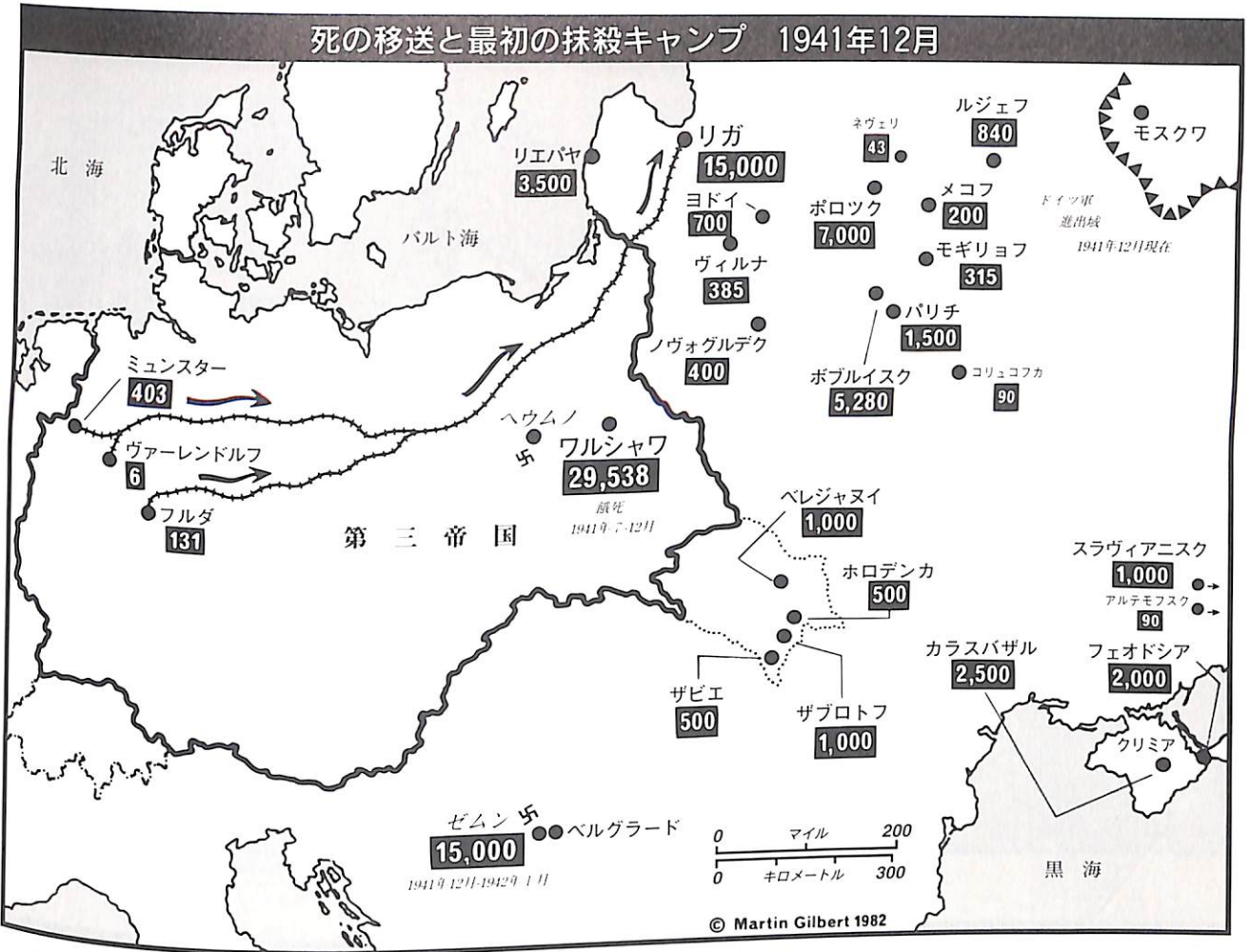
© Martin Gilbert 1982

ユダヤ人虐殺と移送 1941年11月



© Martin Gilbert 1982

死の移送と最初の抹殺キャンプ 1941年12月



1941年11月の実験がうまくいったので、2週間後に2回目の実験が実施された。実験地として選ばれたのが、ヘウムノ村に近い森で、付近のユダヤ人村の住民だった(地図95)。ユダヤ人はコウォから狭軌鉄道でボヴィエルツェ駅へ輸送され、そこから鞭で追われながら川岸へ歩かされた。その夜はザヴァドキ村の製材所(左の写真、1980年撮影)に收容され、食料、水の支給もなく一晩を過ごすことになった。翌朝、彼等はトラックでヘウムノ近郊の森へ運ばれ、排気ガスで殺されると、深い立坑へつき落とされた。一仕事終わるとトラックは製材所へ戻り、同じことを繰り返した。トラックは5両使用された。輸送能力は3両が各150人、2両が各100人であった。このようにして、1列車分のユダヤ人が昼までに片づけられた。

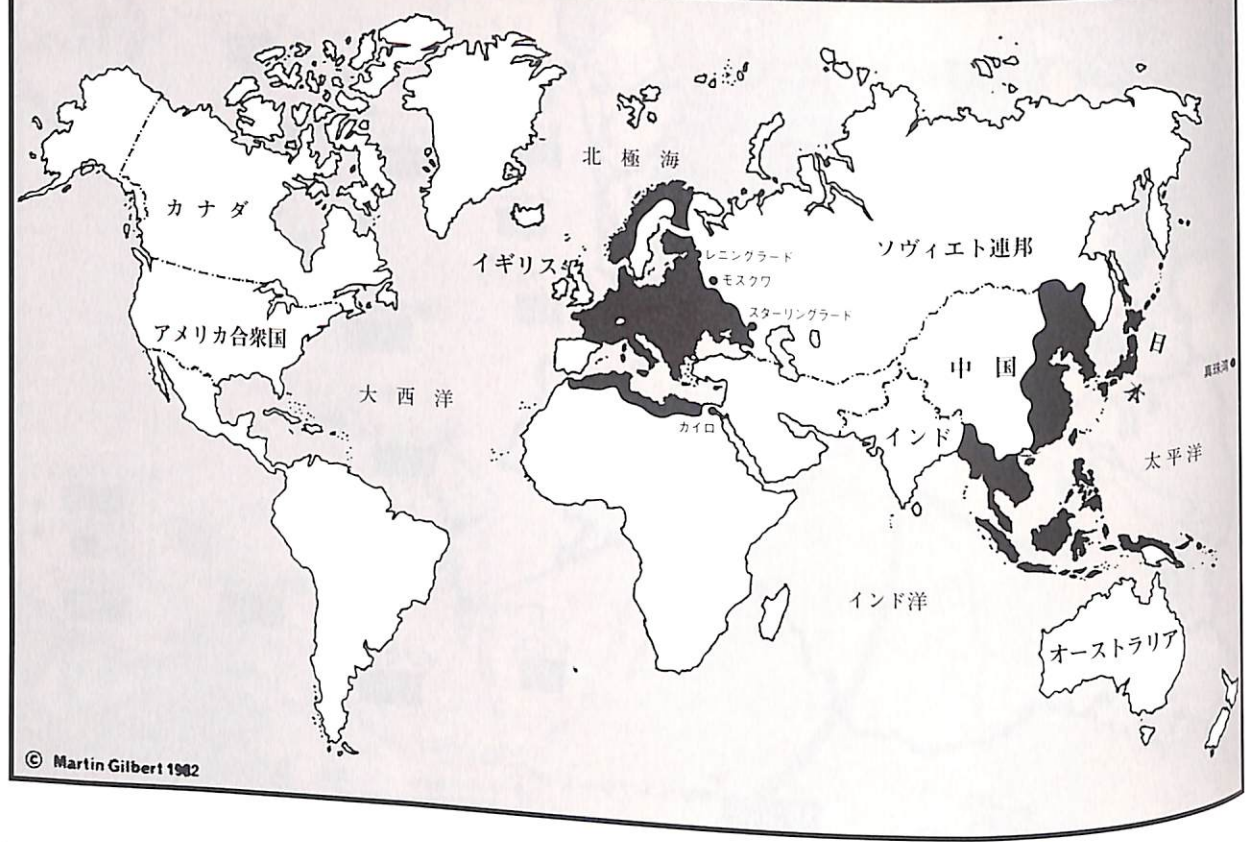
ヘウムノでの第1回ガス殺戮は、1941年12月8日に実施された。それは成功と判断され、以後、規模を大きくして続けられた。次の犠牲者1000人は、6つのユダヤ人村からトラックでコヴァレ・パンスキエに集められ、人数が揃ったところで、1941年12月10日にヘウム

ノへ移送された。

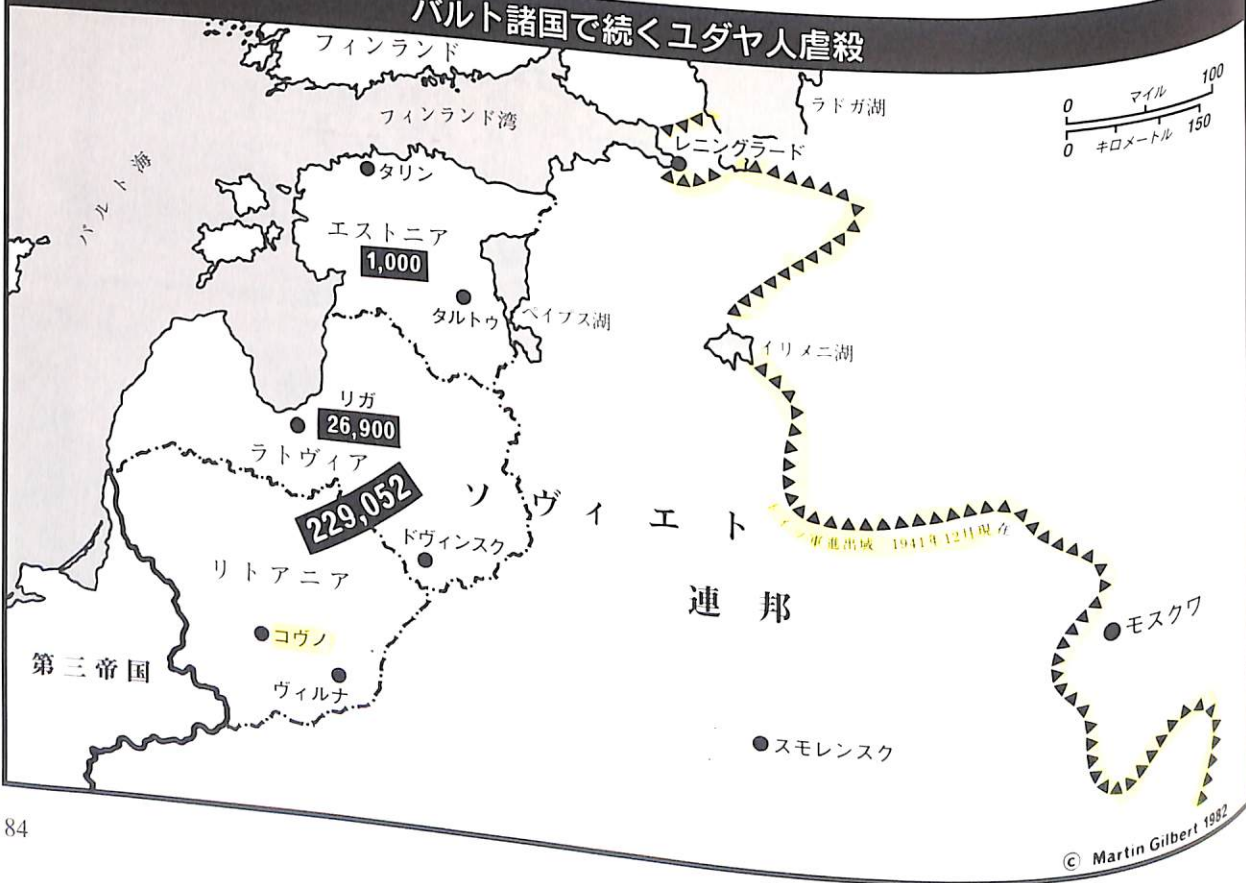
ヘウムノでガス虐殺が始まったちょうどその頃、ドイツからリガへの移送が続き、移送されてきたユダヤ人は、到着後すぐ抹殺されていた(地図96)。1941年12月13日、ヴァーレンドルフから、最後まで残ったユダヤ人6人がリガへ送られて殺された。ヴァーレンドルフのユダヤ人社会の起源は1387年にさかのぼる。1933年時点で総勢41人の小さな社会だったが、大半は1939年までに国外へ移住した。ユダヤ人社会は次々と地上から消えていった。南東方面では、ドイツ軍がクリミア半島を占領していた。ここでも移動抹殺隊が活動し、ユダヤ人社会が次々と消滅していった。

ガス車が使われたのはヘウムノだけではない。ベルグラード郊外のゼムンにあった強制收容所では、セルビア全域から集められた1万5000人ほどのユダヤ人が、赤十字の車輻に偽装したガス車で、組織的に抹殺された。1942年6月までに全員を殺したが、1日平均120人の割合で処理していったのである。ゼムンで仕事を完了すると、このガス車はただちにリガへ移された(104頁参照)。

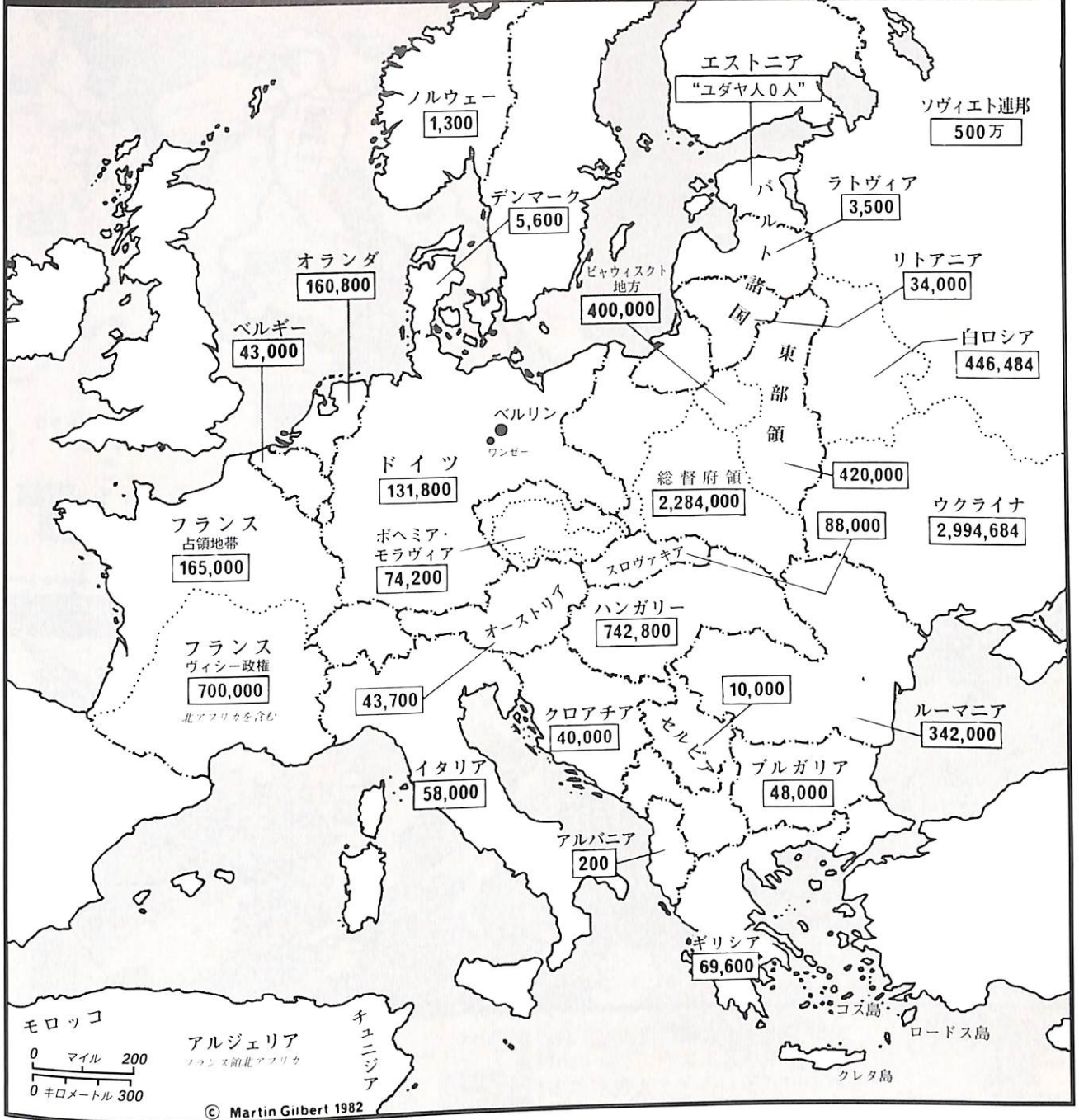
第二次世界大戦：アメリカ、枢軸諸国と日本



バルト諸国で続くユダヤ人虐殺



虐殺計画の対象になったユダヤ人 1942年1月20日



ドイツ軍は1941年12月までにヨーロッパの征服者となり、同年12月8日には日本が英米を相手に戦争に突入した(地図97)。エストニアからは、移動抹殺隊がベルリンへ活動報告を送った。ラトヴィア、リトアニアにおける過去6カ月間のユダヤ人抹殺数は22万9052人と、1桁台の数字まできちんとした、相変らずの正確無比な報告内容であった(地図98)。

1942年1月20日、ベルリン郊外のワンゼー

にドイツの党、政府および軍の高官が集まり、ヨーロッパのユダヤ人の最終的抹殺を話合った。彼等は、これから処理せねばならぬユダヤ人の数を、国別でも検討した(地図99)。バルト諸国の数字がきわめて小さいのは、すでに多数を処理した結果であることを示唆している。このワンゼー会議では、ユダヤ人男性の奴隷労働化、男性と女性の分離、大量移送によるユダヤ問題の「最終解決」計画が練られた。

ホロコースト歴史地図

1918-1948

マーチン・ギルバート 滝川義人[訳]



ATLAS OF THE HOLOCAUST

